特定非営利活動法人
日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

2011年度　活動報告書

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 60 まんしょん早稲田 401
電話：03-6233-7023　　FAX：03-6233-7024
WEB ： http://www.janpplus.jp　　E-mail ： info@janpplus.jp

も　く　じ

代表あいさつ	・・・・・・・・	２
JaNP+の活動目的とミッション	・・・・・・・・	４
HIV 陽性者スピーカー派遣・育成	・・・・・・・・	７
日本エイズ学会参加支援スカラシップ	・・・・・・・・	１２
HIV 陽性者のための勉強会	・・・・・・・・	１５
Talking about SEX	・・・・・・・・	１９
HIV 陽性者交流会	・・・・・・・・	２２
HIV 陽性者調査	・・・・・・・・	２４
医療機関調査	・・・・・・・・	２９
国際ネットワーク	・・・・・・・・	３２
メディア対応	・・・・・・・・	３５
行政への働きかけ（アドボカシー）	・・・・・・・・	３７
広報・事務局	・・・・・・・・	３９

代表あいさつ

HIV陽性者に“自分らしい生き方”が約束される社会をめざして

「十年ひと昔」の言葉の通り、JaNP+を立ち上げた 2002 年当時と比較すると私たち HIV 陽性者を取り巻く環境は大きく変わりました。当時は治療環境が大きく前進し、やっと「感染=死」ではないということを実感できるようになった時代でした。それから十年、HIV 陽性者がおかれている状況が改善されたかというと、それほど単純な問題ではありません。むしろ私たちが直面する課題は多岐に渡り複雑になってきています。HIV 陽性告知を受けた時代背景や地域、さらにはその個人的背景までが影響し、必要な医療や支援に対するニーズはますます多様になっています。たとえば医療機関における HIV 陽性者の診療拒否や職場での不当解雇などが再び顕在化してきています。地域社会においても HIV 感染の事実を安心して開示できる状況にはほど遠い状況です。そのために、さまざまな社会サービスへのアクセスを諦めざるを得ない場合もあります。

クオリティ・オブ・ライフ（QOL=quality of life）という言葉が有ります。これはその人の生活や人生においていかにその人らしく生きていく事が出来るかという質を示す指標なのですが、HIV 陽性である事が“自分らしく生きていく事”を困難にしている状況、つまり QOL を低下させている現実は十年前とそれほど変わっていません。治療環境の地域格差は相変わらず大きいままです。職場においても感染事実を知られる事で不利益を被り不当な立場に甘んじるケースも見受けられます。まして恋愛、結婚、出産と言った個人のライフスタイルや価値観と深く関わる問題に関しては課題が山積しています。女性陽性者への支援は相変わらずあまりにも手薄です。

十年前と同様、HIV 陽性者一人一人は今も弱い立場に立たされています。そこで発揮できる力は小さく、出来る事は限られています。しかし、私たちの小さな力も、つなぎ、あつめ、あわせる事で社会を変えていく事が出来ます。事実 HIV 陽性者の生活がリアリティをもって伝わるようになるにしたがって、自分が HIV 陽性である事を自然に受け止め、前向きな人生を歩き続ける HIV 陽性者も増えてきました。十年前、数人の仲間で始めた JaNP+の活動にも今は全国から参加していただけるようになりました。また、参加まではできなくても JaNP+の活動を知る事で、HIV 陽性告知を冷静に受ける事が出来たという声を聞く事も多くなりました。

HIV 陽性者がどんな時も“自分らしい生き方”が出来る社会が実現するまで、私たちは新たな十年に向けて動き続けていきます。これからもみなさんのご協力とご支援をよろしくお願いします。

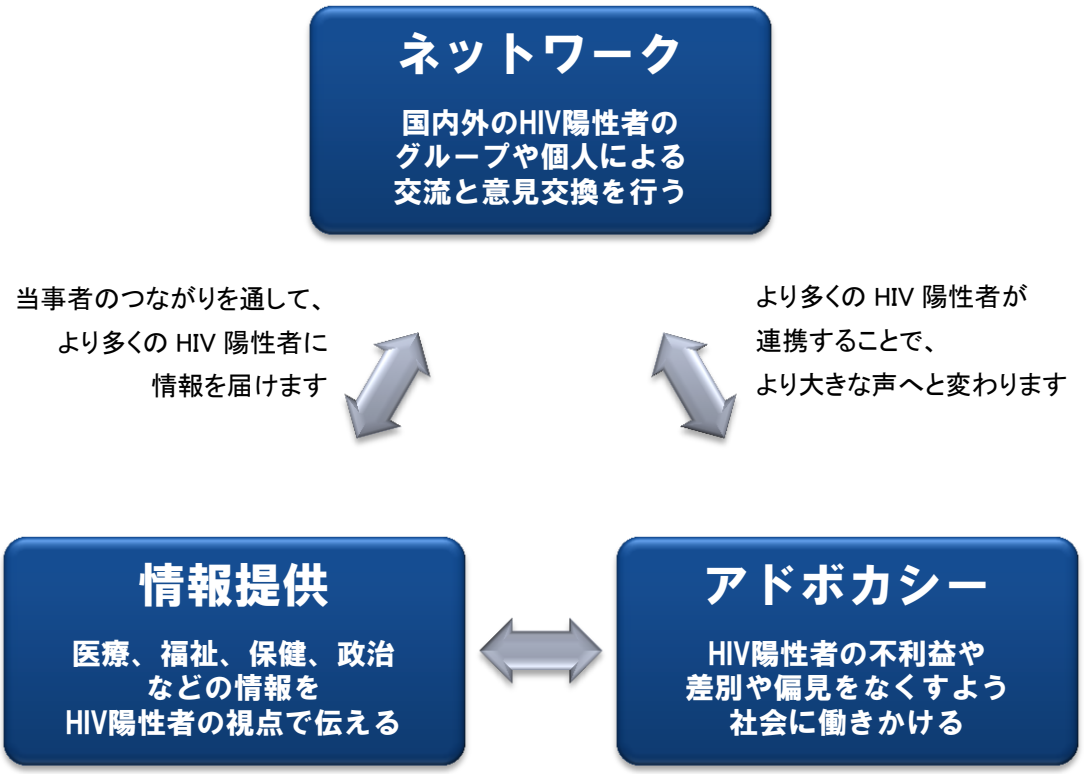
特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス
代表理事　　長谷川　博史

活動目的とミッション

JaNP＋の活動の目的

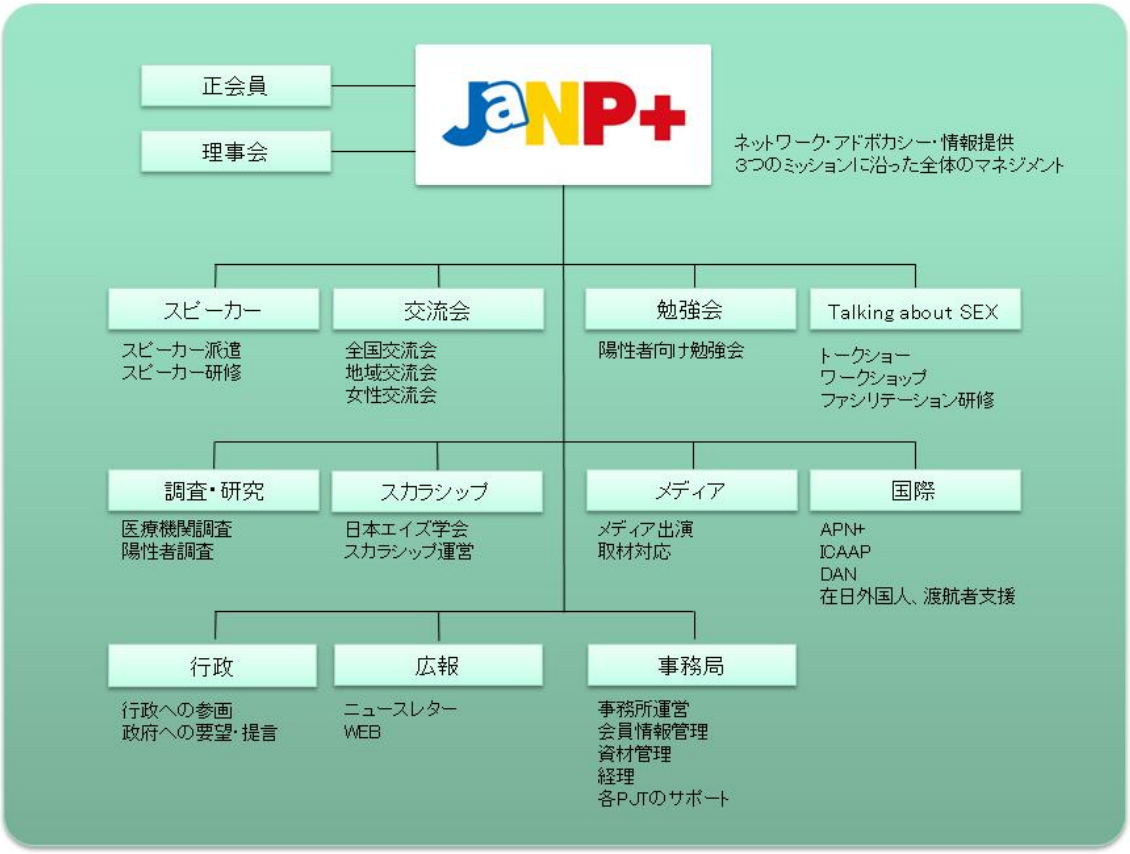
HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、
HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

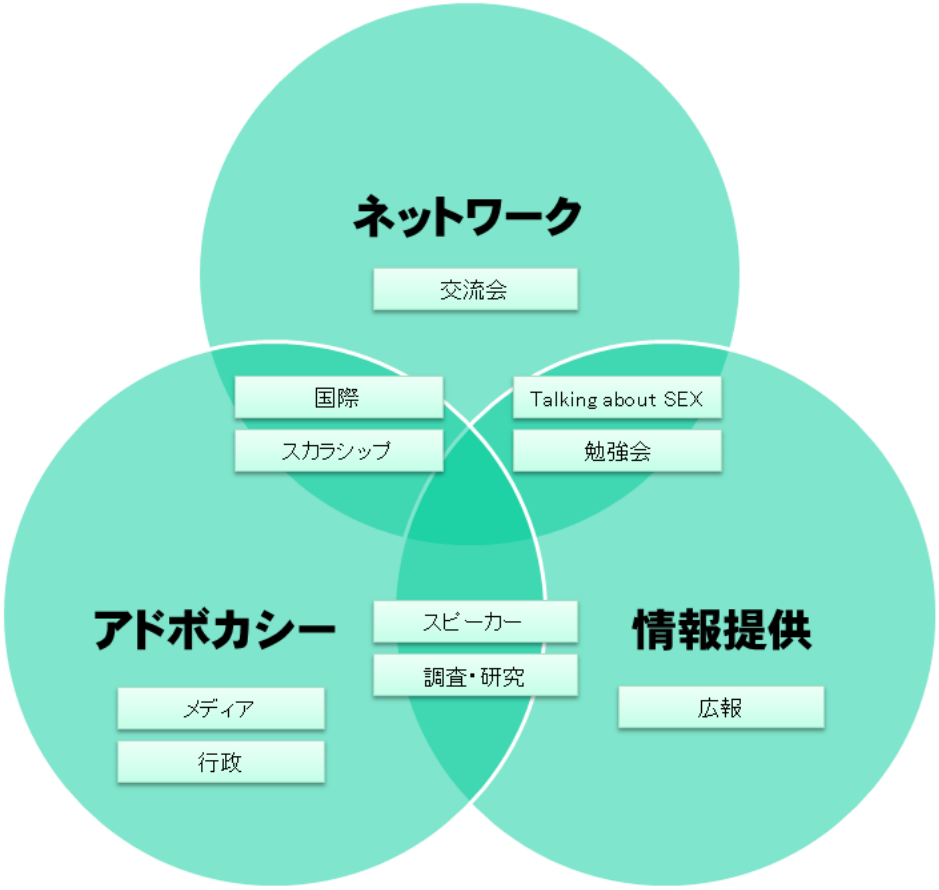
JaNP＋の3つのミッション



客観的な状況把握にもとづいて
社会への働きかけを行います

各プロジェクトとミッションの位置づけ





ＨＩＶ陽性者スピーカー派遣・育成

社会に差別や偏見が存在する限り、HIV陽性者が自分の感染の事実を周囲の人にオープンにして生活するには困難が伴います。HIV陽性者が顔のある一人の生活者として認知される機会がなければ、HIVの問題は多くの人にとって「他人事」のままであり、その結果として偏見や差別はいつまでも解消されない…そんな悪循環が続くでしょう。

当事者であるHIV陽性者が、いきいきと自分らしく暮らしている姿は、こうした悪循環を断ち切る1つの力になり得ます。そのためには、社会が徐々に変わってくことを待つだけではなく、当事者であるHIV 陽性者自身が自らの存在を示していくことも重要です。

現実には、自身がHIV陽性者であることを広く社会に開示できる人は稀かもしれません。しかし一方では、多くのHIV陽性者が自分のできる範囲で身近な人たちに開示をした結果、初めてHIVが「身近な問題」として認識される…そんな小さな変化が起こっているのも事実なのです。

「小さなカミングアウト」を「大きくネットワーク」して社会を変えていく…そのために、JaNP＋ではHIV陽性者スピーカーの研修と派遣を行っています。JaNP+のHIV陽性者スピーカー活動は、テレビや新聞などのメディアから、講演会、研修やグループワークなど小さな会合まで様々なスピーチ機会をとらえ、できるだけ多くのHIV陽性者が全国各地で等身大の語りを提供していくことを目指しています。

HIV陽性者スピーカー派遣　年度実績

全国各地の幅広い分野からスピーチの機会をいただきました。

派遣件数は昨年と同程度でしたが、大人数を対象としたイベント等への派遣が多く、聴講者数は昨年比で大幅増となりました（1,496 名→2,696 名）。

また、2011 年度は新たに 2 名の HIV 陽性者スピーカーが活動を開始しました。

＜派遣件数＞

36 件

＜聴講者の述べ人数＞

2,696 名 （メディアは除く）

＜依頼主の属性＞ （件数）

NGO、NPO	11
医療機関	4
企業	5
教育機関	7
行政	3
メディア	6

＜聴講者の属性＞ （件数／重複あり）

医療職	8
保健所職員	7
心理職	4
行政職員	6
NGO、NPO	5
学生	11
教員	5
HIV 陽性者	4
一般市民、その他	19

＜講演目的＞ （件数／重複あり）

HIV/AIDS の基本的理解	16
HIV 陽性者の理解	25
HIV への差別偏見の解消	18
人権問題	8
感染予防	4
性行動	5
セクシュアリティ、ジェンダー	6
家族	3
就労	6
治療、医療	8
その他	5

＜講演等を担当したスピーカーの人数＞

9 名

※　本報告における数値は、依頼主よりご提出いただいた「派遣依頼書」に基づいて集計したものです。

これまでのスピーカー派遣実績は、WEB サイトでもご覧いただけます。

http://www.janpplus.jp/project/speaker/

スピーチを聴いていただいた皆様の声

講演形式や研修形式の場合には、可能な範囲でアンケートへのご協力をお願いしています。スピーチを聞いていただいた皆様からのアンケート回答は、スピーカーにとってはモチベーションの維持向上と次回以降のスピーチの参考になり、また今後の派遣活動のとってもニーズの把握や活動の改善等に役立てられています。

2011 年度にご協力いただいたアンケートの一部を、以下にご紹介いたします。

＜聴講者へのアンケートから＞

HIV について言う（カミングアウト）する時のつらさだけかと思っていたら言わない（隠す）つらさや、パートナーのつらさがある事に気づかされ、今後の看護につなげようと思う。医療者ではないのに、すごくわかりやすく、やさしさ、思いやりの気持ちが伝わりました。

人の生き方、考え方、その人自身を受け入れること…口で言うのは簡単ですがとても難しいし、人と違うことを許さない社会であるなあと感じました。今までのジブ自身の生き方、人との接し方等、いろいろ考えさせられました。

地元でのお話ということで、とても勇気がいったのではないかと思います。いろいろな体験をされたからこそなのか、話を聞いていて、とても愛情を感じました。

HIV 陽性の人で元気に働いている人がいるということを、どんどん世間の人にアピールできると、HIV に対する偏見も減り、検査を受ける人が増えていくのではないか。

HIV と性の問題は切り離せないので、そこをかくさず堂々と話してくれたので、とてもわかりやすく、心に響きました。

「働きやすい職場は HIV 陽性者に限らず、多様な人たちにとって働きやすい職場」というところに、ハッと気付かされました。

マスメディアを通じて情報を知っていた気になっていましたが、マスメディアのフィルターを通さない直の情報は初めてでした。当初のエイズの扱いがあまりにも劇的だったので、認識が歪められていたことに今さらながら気づかされました。

意外にふつうに話が聞けて良かったです。

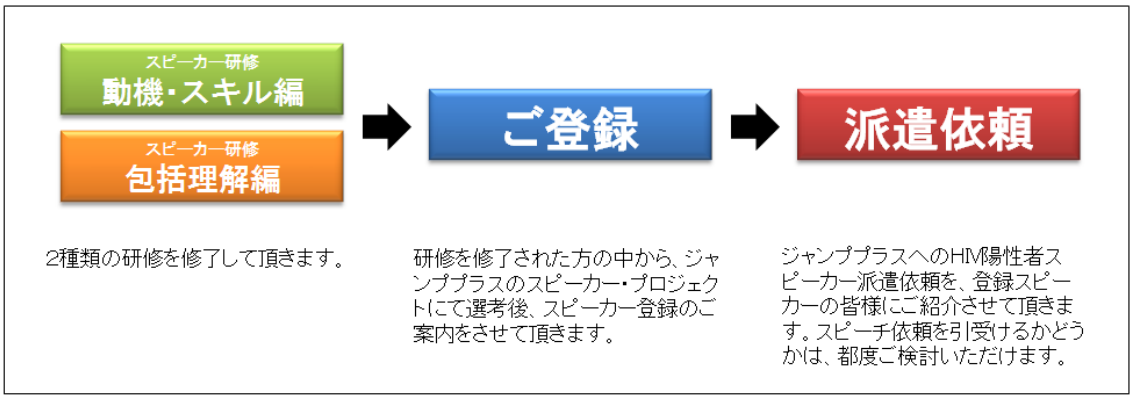
この地域では陽性者の講演がめったにないので、すごく良かったです。バーのママだけでなく、一般の方の前でもやってほしいです。地方だからこそ、リアルな声を聞いてもらって、知識を深めてもらいたいです。

「実は、私は HIV に感染しているんだけど…」と、もし友達に言われた時自分はどう反応するか、ということを考えさせられました。HIV というのは、その人の一部であり、その人の見方は変えないでほしいという言葉に納得しました。

今まで私が受けてきた HIV の教育では、いかに HIV を予防して、自分の身を守るか、ということが中心だったように思いますが、いざ自分の近親者が HIV 陽性になったとき、どう受け止めるか？ということを考える機会は、今回が初めてだったと思います。そのような教育や機会も HIV 教育に取り込んでいけば、差別や偏見が減るのではないかと思いました。

スピーカー研修「包括理解編」 開催

HIV 陽性者がスピーカーとして活動するための準備性を高めるために、JaNP+では 2 つの研修会を提供しています。1 つは、自らの動機や姿勢を確認しつつ、伝える方法を学ぶことを目的とした「動機・スキル編」。もう一つは、様々な角度から HIV 問題を捉え直し、当事者性とともにある程度の視野の広さを獲得するための「包括理解編」です。



今年度は、これらのうち「包括理解編」を開催しました。地域や世代、性別、陽性告知からの経過年数、HIV 関連の活動歴など多様な HIV 陽性者 18 名が参加しました。

また、今回の研修参加者から、選考を経て新たに 5 名の HIV 陽性者スピーカーが加わり、2009 年度末現在の JaNP+の登録スピーカーは計 17 名となりました。

なお、このプロジェクトは日本エイズストップ基金の助成を受けて実施しました。多大なるご支援に感謝申し上げます。

＜開催概要＞

日時	2011 年 6 月 26 日（日）
場所	東京都内
旅費助成	居住地域に応じて旅費・交通費を支給 （参加費は無料）
参加者数	18 名 （スタッフ除く）
参加条件	・ HIV 陽性者としてスピーカー活動をする意志がある。（すでに活動を行っている方を含む） ・ HIV 陽性告知を受けてから 1 年以上経過している。 ・ 定期的に通院しており、自分の健康状態を把握している。 ・ 他の HIV 陽性者または支援団体とのつながりを持っている。 ・ この研修会の全日程に参加可能である。 ・ 研修所定のグランドルールを遵守する。 ・ 研修修了後にレポートを提出する。
講師	「メディアとHIV」 宮田一雄（産経新聞記者） 「性について語る」 中村美亜（セクソロジスト）

＜研修参加者のアンケートから＞

午前は宮田一雄さんのレクチャーを聞き、メディアの呼びかけはこっちが情報を発信して欲しいときにいうのではなく、相手側が欲しいときにいつでも発信できる状態にしておくのも重要だということ、メディアには常に情報を発信をしておくこと、午後の中村さんの話は、今まで自分が触れてきていない部分を触れた感じでした。

人前でスピーチをするには、まず自分自身のことをある程度理解して、整理しておく事が必要だと思うが、その点では中村美亜さんのワークは性というテーマを通じて追い込まれる感情なしに、自分の漠然として感覚を言語化していく作業になっていて、非常に有益だったと思う。

これまで、ある意味「我流」でスピーカー活動を行ってきた自分としては、より良い活動を行うために必要となるものが何なのか、具体的には見えていなかったように思う。個性・感性・その場の状況判断なども重要ではあるが、HIV/AIDSを取り巻くさまざまな情報を取得する事や、話術そのもののスキルアップも不可欠であり、そのためにこうした研修制度があることは非常に意義深いと感じた。

短時間でも大勢の前で話をすることで、とても緊張して言葉がまとまらなくなりました。HIV(+)のスピーカーを目指すとして、美亜さんのワークは性というテーマを通じて追い以前に人前で話をする訓練も必要なのかと感じました。HIV 陽性告知を受けてから2年弱、人として成長できたと思っていましたが、何が変わったのかと疑問に感じました。HIV と向き合う事で色々想い悩む事が思い中、自分でもう少し HIV 感染症の自分であることも見直していこうと思いました。どんな話をするときも、伝えたい自分と受け取る相手のことを感じていきたいと思いました。

私は書籍や文献から学ぶ事がやや苦手なので、今回の研修で直接お話を伺ったり、他の方たちと話し合うことで多くを考え、学ぶ機会となったと思います。最後のワークでも感想を述べましたが、HIV/AIDS に対して自分が知らない事が内側にも外側にも膨大にあるのだということに、改めて気付かされました。今後、もしスピーカーとして活動をはじめるとしても、学びに終わりはなく、継続して自分のスキルや知識を高めていきたいと思いました。

今後に向けて

さらなる派遣機会の拡大のために、今後も HIV 陽性者スピーカー派遣活動に関する各方面への広報により一層努めたいと思います。2012 年度はスピーカー派遣の案内チラシもリニューアルします。

また、2012 年度は 9 月にスピーカー研修「動機・スキル編」の開催を予定しております。

日本エイズ学会参加支援スカラシップ

HIV医療体制は、患者も積極的に医療に参加してゆく先駆的治療の実現が求められます。これは「患者中心の医療」の実質的展開そのものです。しかし、様々な意見を出し合い討議され、新たな治療の在り方が提示される日本エイズ学会に関しては、専門家ではないHIV陽性者が触れる機会は少ないのが実情です。

そこで、全国にいるHIV陽性者が経済的、地理的または心理的に参加しにくいところを、少しでも参加しやすくするために、JaNP＋では複数のHIV陽性者当事者団体および支援団体との協働により、日本エイズ学会・学術集会へのHIV陽性者の参加を促すスカラシップ（学会参加費援助）を行っております。多くの企業や団体、個人によるご支援のもと、HIV陽性者が自ら学会に参加することにより、地域を越えた様々な当事者や支援者、専門家の方々と交流し、あるいは多くの専門的な会議に参加して、HIV感染症に係わる知見をさらに深めてもらいたいと考えています。

一方、多様な専門家の学会参加者にとっても、HIV 陽性者の姿とともに、当事者の視点や発想、熱望などに触れる機会となるのではないでしょうか。

2011年度　スカラシップ委員会運営

2011 年 11 月 30 日～12 月 2 日にわたり開催された第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会に向けて、JaNP+は以下の団体とともに「HIV 陽性者参加支援スカラシップ委員会」を構成しました。

＜構成団体＞

社会福祉法人はばたき福祉事業団　http://www.habatakifukushi.jp/

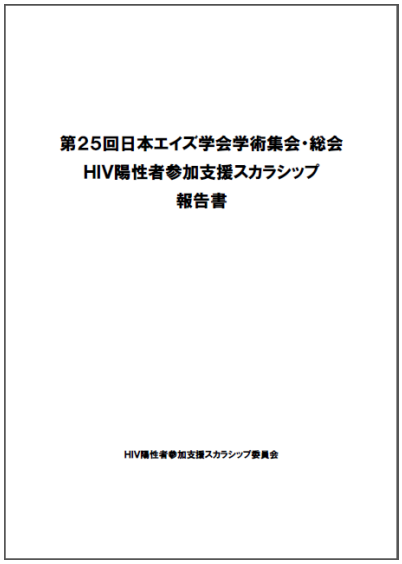
特定非営利活動法人ぷれいす東京　http://www.ptokyo.com/

「第25回日本エイズ学会　HIV陽性者参加支援スカラシップ報告書」 発行

今回も多くの企業および団体から寄付や助成をいただきまして、43 名の陽性者がスカラシップを通じて学会に参加することができました。

スカラシップ委員会では、医療、行政、支援等 HIV/AIDS に関わる方々に当事者の声をお伝えするため、参加者によるレポートをまとめた報告書を発行しました。

学会で発表された現在の HIV/AIDS に関する様々な発表や取り組みについて、HIV 陽性者が感じたリアルな意見をお伝えする内容になっています。


第25回日本エイズ学会学術集会・総会
HIV陽性者参加支援スカラシップ
報告書

HIV陽性者参加支援スカラシップ委員会

報告書は WEB 上でもご覧いただけます。

http://www.janpplus.jp/project/scholarship/

＜学会参加支援実績＞

協賛・助成金総額	：	182 万円
スカラシップ応募者	：	51 名
スカラシップ受給者	：	43 名 （辞退者 8 名）

「HIV陽性者による第25回日本エイズ学会　参加報告会」 開催

学会に参加できなかった HIV 陽性者や、学会に参加した HIV 陽性者の声をよりリアルに声を伝える場として、参加報告会を開催しました。

この報告会では、実際に首都圏以外の地域から学会に参加した陽性者 2 名が、それぞれ緊張しながらも、自身が感じた率直な感想や意見を発表しました。HIV 陽性者による当事者参画の機運の高まりを感じられるイベントとなりました。

＜報告会開催概要＞

開催日時	2012 年 2 月 5 日（土） 14:00～16:00
場所	津田ホール　会議室 T101 （東京都新宿区）
主催	HIV陽性者参加支援スカラシップ委員会
後援	厚生労働省、日本エイズ学会、財団法人エイズ予防財団、日本製薬工業協会
内容	1.　HIV陽性者学会参加支援プログラム　～社会参加促進の可能性～ 社会福祉法人はばたき福祉事業団　柿沼章子 2.　学会共催シンポジウム 「HIV陽性者によるエイズ対策への参画」論点とエイズ予防指針 JaNP+代表理事　長谷川博史 3.　学会参加者による報告　～陽性者の視点で見たエイズ学会～ スカラシップ受給者 2 名 4.　当事者による学会への参加の意義 社会福祉法人はばたき福祉事業団　理事長　大平勝美
参加者数	42 名 （出演者・スタッフ除く）

2012年度　スカラシップ委員会運営

次回の第 26 回日本エイズ学会は、2011 年 11 月 24 日～11 月 26 日に神奈川で開催されます。同学会でもスカラシップを実施できるよう、社会福祉法人はばたき福祉事業団および特定非営利活動法人ぷれいす東京との協働により、すでに準備を始めています。

ＨＩＶ陽性者のための勉強会

HIV陽性者であっても、自身が患者で直面している問題でない限り、医療や福祉の情報について積極的に学ぶ機会はなかなか少ないものです。治療が進歩した現在の日本では、HIV陽性者が「疾患としてのHIV」に向き合う時間が短くなりつつあるのは、当然のことでしょう。

一方、HIV診療に携わる専門家の間では、長期に治療を続けることによる身体的影響や、より良い生活を送るためのセルフケアの必要性、メンタルヘルスや薬物の問題などが重要なテーマとして取り上げられています。

こうした状況は、わたしたちHIV陽性者が長期的な視点での治療、将来利用する可能性のある福祉制度について、もっと知っておく必要があることを示唆しています。しかし実際には、「治療や福祉について学びたい」と思っても、実際にそうした機会に接する手段は限られています。

こうした背景から、ジャンププラスでは「HIV陽性者のための治療・福祉に関する勉強会」を開催しています。この勉強会では、HIVに関連する最新の医療情報や、HIV陽性者が利用する機会のありそうな福祉制度について専門家から分かりやすく学び、客観的に理解することを目指しています。

2011年度「HIV陽性者のための治療に関する勉強会」開催

2011 年度は東京と大阪、そして初めて福岡での開催が実現しました。

＜開催概要・東京＞

日時	10 月 23 日（日）13:30～16:30
会場	東京都内
プログラム	1. 治療と生活のアウトライン 講師：高久陽介（JaNP+事務局長） 2. 医学的な基礎知識と最新情報 講師：山元泰之（東京医科大学病院・臨床検査医学科） 3. 福祉の活用 講師：生島嗣（特定非営利活動法人ぷれいす東京・相談員）
参加者数	18 名 （出演者・スタッフ除く）

＜開催概要・大阪＞

日時	10 月 3 日（日）14:30～17:30
会場	大阪府内
プログラム	1. 治療と生活のアウトライン 講師：高久陽介（JaNP+・事務局長） 2. 医学的な基礎知識と最新情報 講師：富成伸次郎（大阪医療センター・感染症内科） 3. 福祉の活用 講師：岡本学（大阪医療センター・医療相談室）
参加者数	9 名 （出演者・スタッフ除く）

＜開催概要・福岡＞

日時	10 月 24 日（日）14:30～17:30
会場	福岡県内
プログラム	1. 治療と生活のアウトライン 講師：高久陽介（JaNP+・事務局長） 2. 医学的な基礎知識と最新情報 講師：山本政弘（九州医療センター・免疫感染症科） 3. 福祉の活用 講師：黒木真紀（九州医療センター・ソーシャルワーカー）
参加者数	8 名 （出演者・スタッフ除く）

参加者アンケートによれば、福岡での参加者のうち「初めて HIV 陽性者向けのイベントに出席した」という人が約半数であり、4 年ぶりに開催した昨年の東京、大阪、愛知と同様の傾向でした。特に支援リソースの少ない地方においては、こうした機会を継続的に提供する必要があることを感じています。また、「内容がわかりやすかった」、「日頃あまり治療に意識を向けることがないが、定期的にこうした機会を設けてほしい」といった声も複数ありました。

＜参加者アンケートから＞

Q. これまでにHIV陽性者限定の勉強会や交流会等に参加したことはありますか？

	東京	大阪	福岡
ある	14	7	4
ない	3	2	4

Q. この勉強会に参加した理由や動機を教えてください。（複数回答可）

	東京	大阪	福岡
長期にわたる治療に対する取り組み方、心構えを知りたい	5	8	7
服薬、副作用、合併症などについて、より深く知りたい	12	6	7
HIV陽性者が利用可能な福祉制度について、より深く知りたい	9	6	3
現在、不安に思っていることや困っていることへの解決のヒントを得たい	5	3	2
将来、生活環境や健康状態などライフスタイルの変化への準備	6	0	4
他のHIV陽性者からの相談など、サポート活動のための学習	3	2	4
その他	2	0	0

Q. 本日の勉強会について、全体としてどのような印象を持ちましたか？

	東京	大阪	福岡
参考になった	12	7	8
まあまあ参考になった	4	2	0
どちらともいえない	0	0	0
あまり参考にならなかった	1	0	0
参考にならなかった	0	0	0

なお、2011 年度の勉強会は MSD 株式会社のご後援により開催致しました。多大なるご支援に感謝申し上げます。

2012年度の予定

2012 年度も、引き続き勉強会の開催を予定しています。基本的なプログラムは同様ですが、開催地は未定です。開催が決まり次第、ホームページや E-mail 等でご案内します。

Talking about SEX

HIVに感染しても、多くの場合は治療によって健康をコントロールすることができます。感染経路や感染リスクを下げる方法も、多くの陽性者がすでに知っています。

しかし、HIV感染という経験をきっかけとして、セックスや恋愛にどう向き合っていいのかわからない…という思いを抱いている人が少なくありません。パートナーシップを築きたい相手とめぐりあったときにも、HIVがひとつのハードルになっています。

本来、HIV陽性であるかどうかに関係なく、人間にとってセックスや恋愛は生き方にもかかわる大切な問題です。しかし、それらについてきちんと正面から考える機会は、なかなかないものです。

ジャンププラスでは、HIV陽性者の立場からセックスについて考えるプログラム「Talking about SEX」を2011年度より開始しました。自分の大切なセックスライフについて、じっくり考えてもらうために、トークショーとワークショップを展開しています。

なお、このプロジェクトで話されるテーマはセクシュアリティと密接に関連するため、当面はゲイ・バイセクシュアルの方を対象に実施しています。

トークショー

恋愛やセックスの話を自らすることは、多くの人にとってハードルが高いものです。そこで、まずは話を聞くところから始めましょう…というコンセプトで、トークショーを実施しました。様々なトークゲストが、自らの経験や得意分野を軸に、恋愛とセックスにまつわる話をたっぷり語ることで、参加者が自身の恋愛観やセックスに対する考え方を見つめ直す時間となることを目指しました。

＜開催概要＞

開催地	開催日	開催時間	出演者	参加者数
大阪	9 月 10 日	14:00-15:30	伏見憲明（作家）	**8**
東京	10 月 2 日	14:00-15:30	じゅんぺい（JaNP+）	**7**
名古屋	10 月 15 日	14:00-15:30	真野新也（LIFE 東海）、高久陽介（JaNP+）	**6**
東京	11 月 3 日	18:30-20:30	中村うさぎ（作家・エッセイスト）	**14**
名古屋	12 月 3 日	15:00-17:00	城平海（作家）	**5**
大阪	12 月 10 日	14:00-16:00	村上ひろし（雑誌編集者）	**5**
東京	12 月 17 日	19:00-21:00	田亀源五郎（漫画家）	**6**

※ 聞き手：長谷川博史、サセコ（一部イベント）

＜参加者へのアンケートから＞

感染発覚して半年で、これからのセックスについて不安が大きかった。しかし、今回のイベントに参加して、自分自身が考えすぎていた事を実感し、安心しました。ただ、セーファーセックスだけは気をつけなければならない事を学びました。

感染当時は SEX に臆病になっていたときもありました。今回のトークイベントで話を聞けて、1 つの考えの元になったと考えます。

マジメなお話が中心かと思いましたが、聞きやすく、くだけた話が中心で楽しい時間がすごせました。私はノンケよりのバイなので、ノンケよりの話が少し多ければさらに参考になると思いました。

人のセックス観やセックスにまつわる話を堂々と聴ける機会は少ないので、貴重なプログラムでした。このトークショーの後に会場の人と交わって話せる時間があってもよいと思います。

2011 年度はゲイ・バイセクシュアルの HIV 陽性者のみを対象に開催しました。その結果、HIV 陽性者だけでなくゲイコミュニティの中でこうしたトークショーを展開し、ポジティブに恋愛やセックスを語りあえるムードを醸成することが大切だと考えました。

このため 2012 年度は、男性ならどなたでも参加していただけるトークショーとして東京、大阪、名古屋で計 7 回実施する予定です。

ワークショップ

2011 年度は、試行プログラムを含め東京、名古屋、大阪で計 4 回開催しました。HIV 陽性者限定のイベントや他の陽性者と話した経験のない参加者もいました。アンケートでは、当事者同士であっても話しにくいテーマを話せる場へのさらなるニーズが感じられました。

＜開催概要＞

開催地	開催日	開催時間	参加者数
東京	10 月 1 日	13:30-16:30	**7**
名古屋	12 月 4 日	14:30-17:30	**7**
大阪	12 月 11 日	13:30-16:30	**6**
東京	12 月 18 日	13:30-16:30	**6**

＜参加者へのアンケートから＞

SEX にかんしてマイナスのイメージが多く、なるべくセックスをしない生活になっていた自分にとって、今回は SEX に関して前向きなイメージを与えてくれるきっかけになりました。HIV 感染でセックスを今後しない！という無理な決心を少しずつ、今後も解きほぐしていければと思います。

陽性者の方々の SEX 事情を聞くと、陽性者であっても普通に SEX していること（してないこと）を改めて実感する事ができて、安心感が得られました。発覚して半年ほどの方には、今後のイベントにも参加してもらい、安心感を得て欲しいと思う。ワークシート各それぞれも楽しい内容でしたが、今後はひとつひとつをもう少し深く話し合ってもよいかと思いました。

事前に予想していた内容とは少し違っていたけど、とても真摯な会でした。グループワークの中では、最後のグループトークの時間がもう少しあればと思います。

SEX というテーマでのワークショップ。SEX 自体が日頃表立って会話にあまり出てこない。しかし、生きていくうえで行うものであり、HIV に感染してより深く考えなければならなくなったと思う。しかし、反面感染していても、いなくても抱えるリスクは皆同じであり、陽性者だけではなく、一般的にも行って良いワークショップだと思いました。

プログラム後半にお茶など飲みながら自由に歓談できてもよいかも。本音とか言いやすいですし。

2012 年度は東京、大阪、名古屋で計 7 回実施する予定です。また、ワークショップ後に参加者同士の交流する機会を求める声もあり、2011 年度からはワークショップ終了後に任意参加の懇親会も設定しています。

さらに、むずかしいテーマを扱うこのワークショップではファシリテーションが重要な役割を果たすことから、2012 年 5 月にファシリテーション研修を実施します。

なお、2011 年度の Talking about SEX は MAC 財団の助成を受けて実施致しました。多大なるご支援に感謝申し上げます。

ＨＩＶ陽性者交流会

JaNP＋の活動目的である「HIV陽性者があたりまえに生きることのできる社会」の実現のためには、まずHIV陽性者が横に繋がり、力と声を合わせる必要があります。しかし、日頃の生活の中では、他の陽性者と知り合うことは難しい人もいます。

そこでJaNP＋ではHIV陽性者限定の交流会を開催し、交流の場を提供しています。

全国HIV陽性者交流会

2011 年度は諸般の事情により開催できませんでしたが、2012 年度は日本エイズ学会の日程にあわせて開催を予定しています。開催が決まり次第、ホームページや E-mail 等でご案内します。

また、2012 年度は小規模な交流会を 7 月、10 月、2 月に開催します。当面は東京での開催となりますが、具体的なニーズに応じて東京以外の地域での出張開催など、柔軟な形で継続していきたいと考えています。

JaNP＋女子会

女性の HIV 陽性者限定の交流会です。ランチやお茶、お菓子を囲んで、仕事、結婚、妊娠、出産、子育て、家族関係、ときには HIV と関係のない話も交えながら、とりとめなくおしゃべりをしています。2011 年度は 2 度開催しました。

＜開催概要＞

日時	2011 年 5 月 14 日（日） 12:00～16:00
	2011 年 10 月 22 日（土） 12:00～16:00
場所	東京都内 （非公開・会場は参加申込者に対して個別に案内）
参加者数	10 名

子供がいる方が参加しにくい等の課題がありますが、今後もマイペースに継続していけたらと考えています。

ＨＩＶ陽性者調査

ジャンププラスでは、当事者の声やニーズを把握するため、情報提供およびアドボカシーの活動を裏付けるものとして、HIV陽性者を対象とした独自の調査を行っています。

「長期療養時代シリーズ」 WEBサイトをオープン

HIV 陽性者の視点で読み解く長期療養時代

http://chokiryoyo.ptokyo.com/

特定非営利活動法人ぷれいす東京との共同プロジェクト「長期療養時代シリーズ」の WEB サイトがオープンしました。

このプロジェクトの目的は、HIV 陽性の当事者の視点で様々な課題を明らかにして、その結果を当事者に還元したり、社会環境に働きかけたりすることです。そのために、インタビュー調査やアンケート調査などを行い、その結果をまとめて冊子にしたり、シンポジウムを開催したりしてきました。

医療や公衆衛生の視点だけでは捉えきれない HIV 陽性者の現状を、こまで発行してきた長期療養時代シリーズの冊子をもとに、WEB サイトに掲載し、より多くの人にご覧いただけるようになりました。

シンポジウム「HIV陽性者のいま～多様化する長期療養時代のニーズ～」 開催

「長期療養時代シリーズ」の一環として、シンポジウムを開催しました。これまで7年間にわたって取り組んできたこのプロジェクトでは、医療の進歩にも関わらず社会や陽性者自身の中にある“HIV という壁”を感じさせる多くの声を受け取ってきました。その一方で、治療の進歩によって長く生きられる疾患になったことで、HIV 陽性者のニーズは以前よりもずっと多様になってきている状況も明らかになりつつあります。
シンポジウムの前半では、これまでの長期療養時代シリーズに研究者の立場から関わった井上洋士氏から HIV 陽性者の現状について講演。そして後半では、様々な地域や立場から7名の HIV 陽性者が自らの経験や考えを語り、活発な意見交換が行われました。
※　ニュースレター13 号の紙面で、シンポジウムの様子をレポートしています。あわせてご参照ください。

＜開催概要＞

日時	2012 年 4 月 21 日（日） 14:00～16:20
会場	大阪医療センター　緊急災害医療棟 （大阪府大阪市）
主催	特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス 特定非営利活動法人ぷれいす東京
後援	鳥居薬品株式会社
協力	NPO 法人 CHARM、NPO 法人りょうちゃんず、follow、さぽーと京都 BASE KOBE、MASH 大阪、NPO 法人エイズ＆ソサエティ研究会議、 関西 HIV 臨床カンファレンス、公益財団法人エイズ予防財団
プログラム	1.　長期療養時代シリーズを振り返って 井上洋士（放送大学　教授） 2.　WEB サイト「HIV 陽性者の視点で読み解く長期療養時代」の紹介 矢島嵩（ぷれいす東京） 3.　HIV 陽性者によるトークセッション HIV 陽性者 7 名
参加者数	95 名 （出演者・スタッフ除く）

当日は医療、保健、行政、NGO、教育、学生、企業など様々な分野の方々が来場されました。また、アンケート回収部数 66 名のうち 46 名が「とても参考になった」、16 名が「やや参考になった」との回答がありました。

＜来場者アンケートから＞

この4月から HIV 診療に関わるようになって、まだ陽性者の方々の意見を聞く機会があまりなかったので、とても参考になりました。

長期療養になってくるにつれ、ニーズが多様になり、それらに対応するのが難しくなっているように思います。また、いつも思うのですが、東京とそれ以外の地方との医療の差を感じます。

地方でどのように市民活動の組織を作っていくか、模索している。とても参考になった。

今回の中で出てきた地域差（医療への関わり方やサポートについてなどの）について、今後もいろいろと関心を向けていきたいと思います。このような地域差についても、情報発信や問題提起をし続けて頂きたいです。

調査とか見方とか、色々な視点があることが本当に実感できました。一方通行じゃない調査というか、姿勢って大事だなと思えました。今日はありがとうございました。

医療に関するニーズ調査

この WEB アンケートでは、HIV 陽性者が感染判明後から現在までに経験した、通院や入院に関する出来事、あるいは日常生活や様々な病気やケガについて、HIV 陽性者として日頃感じていることをお伺いしています。

アンケートの結果は、報告書にまとめて全国の医療機関や行政などへ配布するほか、ウェブサイトでも公開いたします。

この取り組みを通じて、「私たち HIV 陽性者が、日本の医療に対してどのようなニーズを持っているか？」を明らかにし、当事者の声として伝えていきたいと考えています。

＜調査概要＞

受付期間	2012 年 6 月 1 日～9 月 30 日
URL	https://qooker.jp/Q/ja/janp/janp/

なお、このプロジェクトは「2011 年度ファイザープログラム　～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援～」の助成を受けて実施しています。

2012年度　調査プロジェクト「Futures Japan」への参加

行政や医療等に向けてアドボカシー活動を行っていくためには、引き続き説得力のあるエビデンスが必要となります。そのため JaNP+では、2012 年度よりスタートする調査プロジェクト「Futures Japan」に参加協力していきます。Futures Japan は、長期療養時代シリーズでもおなじみ放送大学の井上洋士教授を研究代表者をつとめる、当事者参加型の調査研究です（文科省系の日本学術振興会の科学研究助成費「基盤研究 B　HIV 陽性者のヘルス・プロモーション支援に向けた当事者参加型調査研究」）。これまで以上に質量ともに充実した、かつ当事者視点を重視した HIV 陽性者へのアンケート調査を実現し、エイズ対策の重要なエビデンスとなることを目指しています。

Futures Japan プロジェクトでは、幅広い当事者の視点を重視した調査設計とするため、HIV 陽性者 20 名以上（予定）による「レファレンスグループ」を設置。JaNP+は、レファレンスグループの運営に協力していく予定です。

医療機関調査

HIV陽性者にとって、通院できる医療機関の選択肢としてHIV・エイズの診療の専門性があることはもちろん、HIV・エイズや陽性者について偏見がないことは不可欠な条件といえます。

しかし現状では、HIV陽性者への治療提供について「エイズ治療拠点病院」において提供されることが厚生労働省の通達により定められているものの、実際には拠点病院によって診療実績に格差がある状況が続いています。また、一般の医療機関において自身がHIV陽性者であることを伝えることは、プライバシーや差別的対応を受ける等の大きなリスクが伴ってしまいます。

こうした問題を当事者の立場から少しでも理解してもらうべく、私たちは継続的に医療機関に対する調査や働きかけを行っています。

HIV陽性者が受診可能な一般医療機関情報の収集・提供

一般医療機関においては、HIV 陽性であることを理由に差別的な対応や診療拒否などの不利益を被るケースが少なくありません。実際には、院内での感染症対策などが十分な医療機関であれば通常の治療提供が可能なはずですが、残念ながら医療従事者であってもこうした理解は進んでいないのです。

そこで、JaNP+では、「HIV 陽性であっても受診可能な医療機関」に関する情報の募集を開始しました。自薦・他薦を問わず全国より広く募集するとともに、HIV 陽性者や医療者、支援者等への情報提供に活用する取り組みです。

プロジェクト開始当初は、「HIV 陽性者が受診できる医療機関は、HIV を含めた感染症に対する理解や衛生上の対策等の面で安心できる医療機関そのものである」との理念から、HIV 陽性者および医療者、支援者等を含む多くの人たちが情報を共有できるよう、WEB サイトや印刷物等を通じて公開する予定であした。しかし、検討段階で多くの HIV 陽性者および専門家に意見聴取を行った結果、本プロジェクトの理念目的と実施内容については賛同を得たものの、一方で、下記の点について懸念する意見が複数寄せられました。

① 実際に一般の病院やクリニックに通院している HIV 陽性者からすると、プライバシーを不安に感じて情報提供を躊躇するのではないか。
② 医療機関名の公開については、当該機関への風評被害が起こるかもしれない。
③ 院長は受け入れに前向きであっても、看護師や事務スタッフ等が否定的である（あるいはその逆も）といったケースがあり、医療機関名だけでは「受診可能」とは言えない。
④ 病院では、診療科によって HIV に対する理解や受診の可否が異なる可能性がある。
⑤ 他薦の場合においては、実際には個別的な事情に応じて受け入れているケース（感染判明以前からの患者である、拠点病院からの紹介によりやむを得ず…等）、HIV 陽性者なら誰でも受診できるわけではない場合がある。

こうした意見を踏まえ、本プロジェクトでは具体的な医療機関の情報は公開せず、HIV 陽性者および医療者、支援者等からの問い合わせに応じて個別に情報提供を行うこととしました。また、他薦の場合においては、予約時に HIV 陽性である旨の申告の要否、受診できる診療科や医師名等について、事前に当該医療機関に対し確認を行うこととしました。情報共有の効果は下がってしまいましたが、こうした現状に耳を傾けながら粘り強く取り組みを継続していくことが重要であると判断しました。

このような慎重な検討を経て、HIV 陽性者グループおよび個人、HIV 陽性者支援団体、エイズ治療拠点病院等 HIV/AIDS 診療に携わる医療機関を主な対象として、フライヤー配布および E-mail やインターネットにて広報を行いました。

2011 年度末時点で、138 件の HIV 陽性であっても受診可能な医療機関情報を提供していただききました。

なお、このプロジェクトは「2010 年度ファイザープログラム　～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援～」の助成を受けて実施しました。2012 年度以降も、この取り組みを継続していきます。

国際ネットワーク活動

「HIV陽性者があたりまえに生きることのできる社会」の実現は、日本国内における活動によってのみ実現するものではありません。マラリア、結核と並んで世界三大感染症と呼ばれるHIVの問題には、グローバルな視点で取り組むことが必要不可欠です。

この観点からJaNP＋では国内のみならず、国外のHIV陽性者とのネットワークを広げることが重要であると考え、HIV陽性者グループや関連団体と連携し、国際会議等への参画を積極的に行ってきました。

2010年は”すべての人にエイズの予防と治療とケアを提供する ”というユニバーサルアクセスの最終目標にあたる年でしたが、残念ながら目標を達成することはできませんでした。世界的な不況が長引く中、グローバルファンド（エイズ・結核・マラリア世界基金）への増資も不調に終わった一年でしたが、そうした厳しい状況の中であるからこそ、市民社会が国際社会のリーダーに働きかけを行い、国境と言う枠組みを超えた密接な協力体制を築く必要性が高まっています。市民社会をリードすべき存在として、HIV／エイズ問題の当事者である私たちの国際分野での活動は、いっそう重要な役割を果たようになってきています。

ICAAP10(アジア太平洋国際エイズ会議） 参加

2011 年 8 月 26 日から 8 月 30 日までの 5 日間、第 10 回アジア太平洋国際エイズ会議が開催されました。神戸で開催された第 8 回以来の東アジアでの開催となり、JaNP+からは長谷川博史、羽鳥潤の 2 名が参加しました。

ICAAP 10

http://api-net.jfap.or.jp/library/societyInfo/asia_aids_2011/13.html

DANへの参画、協力

2010 年末、アジアの 5 カ国（韓国、台湾、香港、シンガポール、日本）をつなぐ MSM（Men who have sex with men）向け HIV 予防啓発活動の NGO によるネットワーク Developed Asia Network（DAN）が設立され、 HIV 陽性者の立場から JaNP+も参画しています。

2011 年 12 月 2 日、日本国内の HIV/AIDS 関連の NGO を招聘し、DAN のコーディネーターを務める Laurindo Garcic 氏を交えた意見交換会がコミュニティセンターakta で開催されました。

DAN JAPAN

http://fields.canpan.info/organization/detail/1222827410

APN＋への参加、協力

アジア太平洋地域の HIV 陽性者が集うネットワーク、APN+（the network of PLHIV living in the Asia Pacific region）の年次総会が 2012 年 2 月 10 日にバンコクで開催され、羽鳥が参加しました。

APN+

http://www.apnplus.org/

大規模洪水に伴うタイ人労働者の入国に関する厚労省・経産省への申し入れ

2011 年 11 月、タイで大規模な洪水があり、操業不能となった現地の日系企業の工場では、多数のタイ人労働者を日本で就労させる対応を行いました。

これに伴い、日本国内においても HIV 陽性者への治療が問題なく継続できるよう配慮し、また持ち込まれる薬剤に関する税関での対応や情報提供が問題なく行われるよう、特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民の会と共同で、厚生労働省および経済産業省に対して申し入れました。

この結果、タイ人労働者の第一陣到着までに、タイ語と日本語によるチラシが作成された他、厚生労働省のホームページ上や関連機関への伝達により、受け入れ企業とタイ人労働者の双方への情報提供が実現しました。

主要国におけるHIV陽性者の入国規制に関する情報提供

HIV 陽性者が抱えている不安の一つに、海外への渡航に際する入国の可否があります。そこで、英語で提供されているウェブサイト“HIV Travel”の情報をもとに、日本と往来の多い主要な国々について和訳し、リストとしてウェブサイトにアップしています。

残念ながら、国によっては法律上の規制と運用の実態が異なる場合もあり、このリストのみをもって入国できるかどうかを判断しにくいこともありますが、少なくとも当事者が判断する際の最初の情報として参考になると思いますし、HIV に対する差別や偏見の現状を知って頂くきっかけにもなるでしょう。

HIV 陽性者や医療機関からの入国規制に関するご相談は、年に数件ほど寄せられています。2010 年度に始めたこの取り組みが、徐々に認知されてきたようです。

HIV 陽性者の入国規制に関する現状一覧は、WEB サイトでもご覧いただけます。

URL : http://www.janpplus.jp/project/information/

HIV Travel （海外サイト）

URL : http://www.hivtravel.org/

メディア対応

活動の性質上、JaNP＋にはテレビ、新聞、雑誌など様々なメディアからの取材依頼があります。しかし、エイズの登場以降、あらゆる形で行われた報道は、HIV・エイズおよびHIV陽性者に対する差別や偏見と密接に関わっており、それらは良くも悪くも現在の私たちに大きな影響を及ぼしてきました。

近年では、エイズ・パニックの時代と比べてHIV・エイズに関する報道自体が少なくなっています。マスメディアを通じて大げさに取り上げることが、当事者である私たちにとって必ずしも有益であるとは考えていません。しかし、マスメディアの影響力は、私たちの活動が届かない人々に語りかける機会として無視できないものです。また、取り組み方によっては、私たちのミッションである「HIV陽性者があたりまえに生きられる社会の実現」にも寄与できると考えています。

このため、JaNP＋ではこれまでの活動を通じた経験を活かしながら、機会をとらえて様々なメディアからの取材依頼に対応しています。

取材対応・出演実績

2011 年度は以下の各メディアにおいて、HIV 陽性者の立場からの意見や JaNP+の活動について、取り上げていただきました。

2011 年 6 月	東京スポーツ　コメント掲載
2011 年 6 月	NHK E テレ「ハートをつなごう」 出演
2011 年 10 月	ビッグイシュー　活動紹介掲載
2011 年 11 月	NHK E テレ「ハートをつなごう」 出演
2011 年 12 月	季刊セクシュアリティ　掲載
2012 年 2 月	NHK E テレ「ハートをつなごう」 出演
2012 年 3 月	Badi　掲載

社会への働きかけ（アドボカシー）

JaNP＋では、「HIV陽性者の立場からの主張」「HIV陽性者の権利擁護」「HIV陽性者の社会参加」といった視点から、HIV陽性者のエイズ対策へのより広範な関与（GIPA：Greater Involvement of PLWHA）を推進するべく、アドボカシー活動を行っています。

広い意味では、ジャンププラスの活動全体がアドボカシーにつながるものですが、ここでは特に、政府および行政への働きかけについてご報告します。

行政への参画

2011 年度はエイズ予防指針の見直し年度にあたり、代表理事の長谷川がエイズ予防指針見直し作業班の委員を務めています。

また前年度に引き続き長谷川が東京都エイズ専門家委員として、また高久陽介が東京都エイズ啓発ポスターの審査員として、東京都のエイズ対策に参画しました。

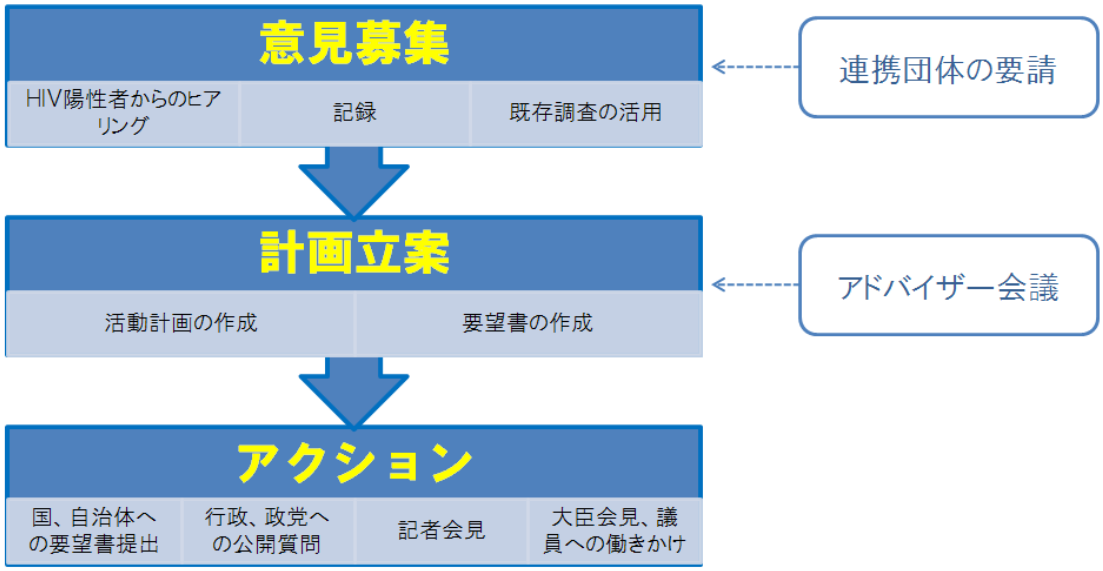
HIV陽性者からの意見・要望を反映 「ポジティブ・ボイス・プロジェクト」

アドボカシー活動を行うにあたっては、より多くの HIV 陽性者の声を反映させる必要があります。このため、JaNP+では「ポジティブ・ボイス・プロジェクト」（Positive Voice Project）によって HIV 陽性者からの意見を随時募集しています。

また、連携団体や専門家によるアドバイザー会議を設立し、客観的な視点から活動への助言を求めながら、本プロジェクトの運営に反映させていきます。

ご提出いただいた意見の全てが行政機関等への提言や要望に必ず反映されることを保証するものではありません。しかし、皆様から頂いた声を届けられるよう最大限に努めてまいります。より多くの皆様からの御意見、御要望をお待ちしております。

＜ポジティブ・ボイス・プロジェクトの概要＞



ご意見は、所定の応募用紙により郵送・FAX・E-mail にて随時受け付けております。匿名も可能です。

URL：http://www.janpplus.jp/project/advocacy/

広報・事務局

ニュースレターの発行

2010 年度は、ニュースレターの第 12 号を発行しました。

また、2012 年 6 月に発行されます第 13 号より紙面をリニューアルし、いままでの 4 ページから 8 ページにボリュームアップ。発行部数も従来の 3000 部から 5000 部へと増やし、より多くの方に HIV 陽性者の声を届けられるよう努めています。

ニュースレターは、ホームページで PDF ファイルでご覧いただけます。

URL : http://www.janpplus.jp/project/advocacy/

WEBサイトの運営

主にイベント案内や情報提供などの JaNP+の活動報告として、オフィシャルサイトを適宜更新し広報に役立てています。初めて JaNP+に問い合わせる方が JaNP+の活動について調べたり、スピーカーの派遣依頼や賛助会員や寄付の方法など手続きを事前に確認できたりすることで、結果として事務局の実務負担の軽減にもつながっています。なお、2010 年度の WEB サイトの更新回数は 53 回でした（軽微な修正等は除く）。

事務局運営

事務局では、外部関係先との一次対応、印刷物や資料の発送、イベントの会場手配や備品などの準備、アンケート集計、事務所の管理、会計を行いました。

アンケート集計やニュースレター発送作業などのうち個人情報の守秘に支障なのない作業については、HIV 陽性であるか否かを問わずボランティアスタッフの募集を行い、数名のボランティアの方々が定期的に協力してくださっています。

また、2012 年度はパンフレットをリニューアルする予定です。